
2012年度 桃山学院大学生の
学生生活上の諸活動に関する実態調査

■本調査について

多様化する学生の実態を把握することは、学生サービスの更なる充実に繋がるとともに、大学の自己点検・自己評価の指針として重要である。

そこで本学では、1994年より毎年1回、ポイントを絞った形で独自の学生生活実態調査を実施している。94年度は奨学金制度の改革および特に下宿生へのサポート体制の確立に向けた資料作りとして「経済状況調査」を実施し、翌95年度は和泉新キャンパス移転に伴う学生生活の環境変化およびクラブ・サークル活動、大学祭など正課外のキャンパスライフおよびイベントへの関心度を探る「課外活動に関する実態調査」を実施、また96年度は大学への登校時刻・出席コマ数から食事のとり方、趣味・嗜好品、悩み事までいたる「個人生活」について実施した。各々の調査結果は「下宿物件の開拓」「奨学金制度の改革」「学生福利厚生等施設の建設」などに生かされたほか、「自由回答」にある様々な「声」を大学として責任をもって受け止め、それに応える機関としての「わたしの提案箱（A.C.C）制度」の実施（1998年度から発足）など、学生サービス諸施策の立案や制度改革に取り組み、一定の成果を上げてきた。

それから十数年が経過した現在、課外活動分野の調査のみならず、学生生活における正課活動の「位置づけ」から個々の諸活動にまで項目を掘り下げ、本学学生をとりまくすべての環境と動向について調査を行った。

■調査の概要

○調査期間：2012年11月22日（火）

○調査方法：講義時間の冒頭に出席者に用紙を配布し、記入後回収

○調査対象：火曜2時限目開講科目のうち、以下4講義を履修した学部学生1,089名

（内訳：経済249名、社会274名、経営223名、国際教養（文含む）166名、法学部177名）

- ・ 共通教養特別講義－文化財保護論
- ・ 総合人間学
- ・ 健康・スポーツ学講義 [2]－レクリエーション概論
- ・ 法情報学

○有効回答者数：382名（回答率：35.1%）

○表記方法：各設問の回答結果を視覚的に把握できるように、択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示した。

1 学業について

資格課程
進路

2 課外活動について

クラブ・サークルへの加入状況
クラブ・サークルの満足度
ボランティア活動

3 経済・生活状況について

3 学費
奨学金
奨学金の必要度
現在の住居
アルバイト
携帯電話

4 読書について

4 本学図書館の利用状況
読書に要する費用（1 ヶ月）
読書量（1 ヶ月）
読書に費やす時間（1 日）



5 悩み・健康について

2 現在の関心事
現在の悩み
困ったとき、悩んだ時の相談相手
日頃のストレス
日頃の健康
健康についての気遣い
飲酒
喫煙
嫌煙
睡眠時間
食生活
朝食

6 情報関連について

9 パソコン保有状況
ワープロ習得状況
パソコンの主たる利用目的
インターネットの利用
本学ホームページの利用
本学情報センター自習室の利用
本学からの情報
本学から送信されるメール

7 自由記述について

1 大学に対する要望

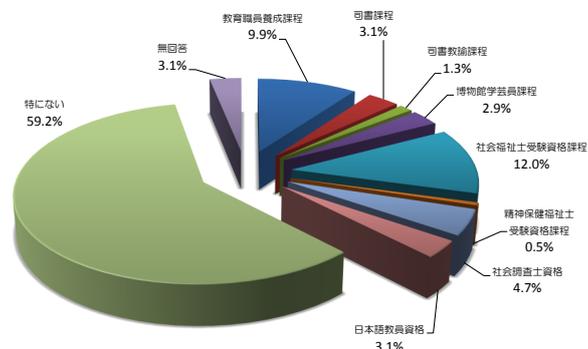
学業について

Q.1 本学で一番取得したい資格課程は？

例年通り「特にない」が過半数を占めるという残念な結果となった。「社会福祉士受験資格課程」が前年比+8.0ポイントと大幅な増加となったが、これは受講希望者増というよりも、昨年度に比べて、回答者における社会福祉学科生の割合

が4.9%から14.1%と大きく増加していることが要因であると考えられる。また、「司書課程」は2008年度調査では13.7%で最も人気の高い資格課程であったにも関わらず、年々割合が低下し、現在は3.1%と低い割合となっている。

	取得したい資格課程	回答数	構成比
1	教育職員養成課程	38	9.9%
2	司書課程	12	3.1%
3	司書教諭課程	5	1.3%
4	博物館学芸員課程	11	2.9%
5	社会福祉士受験資格課程	46	12.0%
6	精神保健福祉士受験資格課程	2	0.5%
7	社会調査士資格	18	4.7%
8	日本語教員資格	12	3.1%
9	特にない	226	59.2%
	無回答	12	3.1%
	合計	382	100.0%



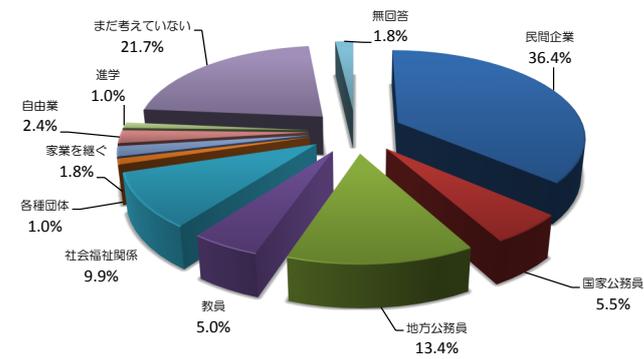
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.2 卒業後の進路希望は？

民間企業就職希望者が前年比△9.3ポイントと大幅に減少となる一方で、社会福祉関係が+6.4ポイントと大きく増加している。しかし、これも社会福祉学科生の割合が増えたこと

が影響していると考えられるだろう。それ以外の進路希望先については、大きな変化が見られなかった。

	卒業後の進路希望	回答数	構成比
1	民間企業	139	36.4%
2	国家公務員	21	5.5%
3	地方公務員	51	13.4%
4	教員	19	5.0%
5	社会福祉関係	38	9.9%
6	各種団体	4	1.0%
7	家業を継ぐ	7	1.8%
8	自由業	9	2.4%
9	進学	4	1.0%
10	まだ考えていない	83	21.7%
	無回答	7	1.8%
	合計	382	100.0%



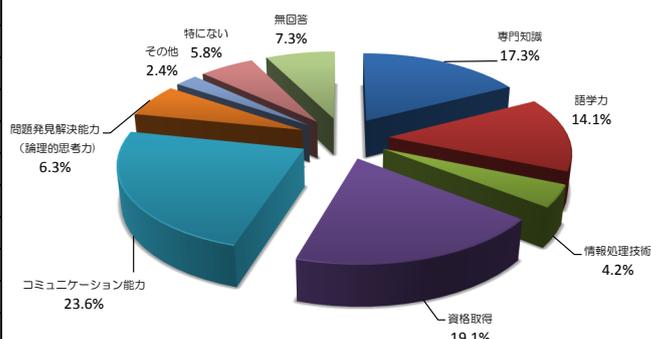
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.3 自分の進路のために一番身につけたいものは？

2009年からそれまで最も割合の高かった「資格取得」を「コミュニケーション能力」が上回るようになっており、今回も同様の結果となった。昨今の就職活動においては、学業

成績や資格修得よりも、大学生活の過ごし方や採用面接を重要視する企業が多くなっていることが原因の一つと考えられる。

	自分の進路のために一番身につけたいもの	人数	構成比
1	専門知識	66	17.3%
2	語学力	54	14.1%
3	情報処理技術	16	4.2%
4	資格取得	73	19.1%
5	コミュニケーション能力	90	23.6%
6	問題発見解決能力（論理的思考力）	24	6.3%
7	その他	9	2.4%
8	特にない	22	5.8%
	無回答	28	7.3%
	合計	382	100.0%



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

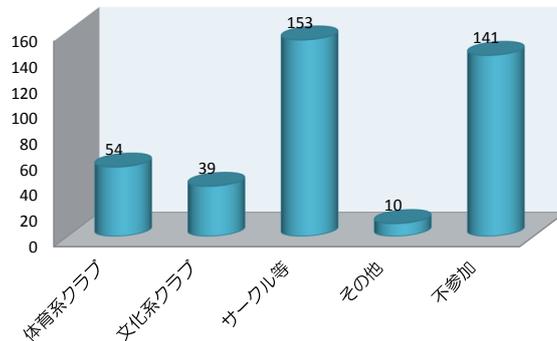
課外活動について

Q.4 所属クラブはどこですか？ ※複数選択可

近年では「活動時間が多い」「上下関係が厳しい」イメージのある体育系・文化系クラブへの加入者数は減少傾向にある

一方で、時間的拘束が少ないイメージのある同好会などのサークル加入者数は増加する傾向にある。

所属クラブ	人数
1 体育系クラブ	54
2 文化系クラブ	39
3 サークル等	153
4 その他	10
5 不参加	141
合計	397



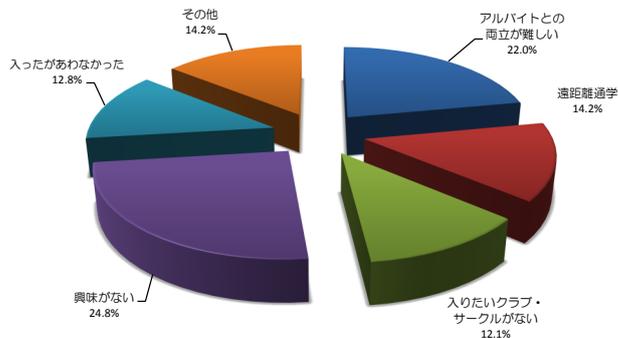
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.5 不参加の理由は？ (Q.4で不参加を選択した方のみ)

最近の調査では、「アルバイトとの両立が難しい」「遠距離通学」など、課外活動には興味があるにもかかわらず、経

済的理由で参加できない割合がやや増加傾向にあるのが気になるところである。

不参加の理由は？	人数	構成比
1 アルバイトとの両立が難しい	31	22.0%
2 遠距離通学	20	14.2%
3 入りたいクラブ・サークルがない	17	12.1%
4 興味がない	35	24.8%
5 入ったがあわなかった	18	12.8%
6 その他	20	14.2%
合計	141	100.0%



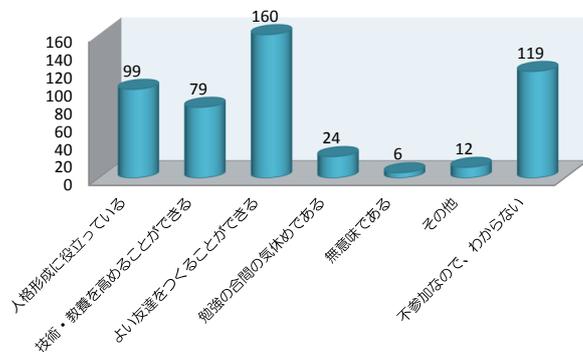
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.6 クラブ活動にはどんな効果があると思いますか？ ※複数選択可

前回までの調査と同様、活動自体から得られる能力向上よりも「よい友達をつくることができる」「人格形成に役立っている」などの副次的効果に満足を感じる学生が多い結果となった。言うまでも無く、クラブ・サークル活動は、多くの

学生が高めたいと感じている「コミュニケーション能力」の向上に効果的であり、課外活動への参加は学生にとって有益であるといえる。

クラブ活動は？	人数
1 人格形成に役立っている	99
2 技術・教養を高めることができる	79
3 よい友達をつくることができる	160
4 勉強の合間の気休めである	24
5 無意味である	6
6 その他	12
7 不参加なので、わからない	119
合計	499



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

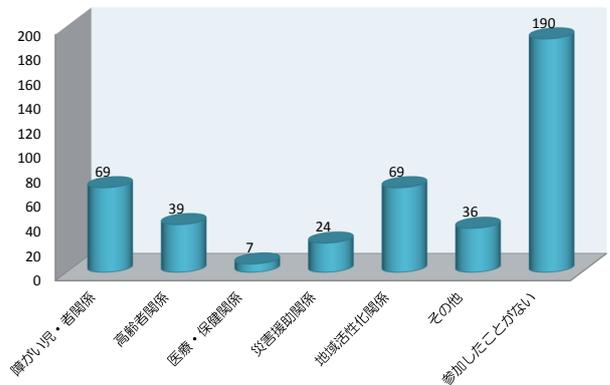
課外活動について

Q.7 今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか？ ※複数選択可

本学では東日本大震災発生以降、日本キリスト教団学生友愛会エマオ（仙台市）の協力の下、継続的に被災地へ学生を派遣し復興支援を行っているが、「災害援助関係」の件数は

伸び悩んでいる。今回は昨年度に比べ社会福祉学科生の有効回答数が高かったため、「障がい児・者関係」の人数が大きく増加している。

	今までにどのようなボランティア活動に参加したことが	人数
1	障がい児・者関係	69
2	高齢者関係	39
3	医療・保健関係	7
4	災害援助関係	24
5	地域活性化関係	69
6	その他	36
7	参加したことがない	190
合計		434



※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

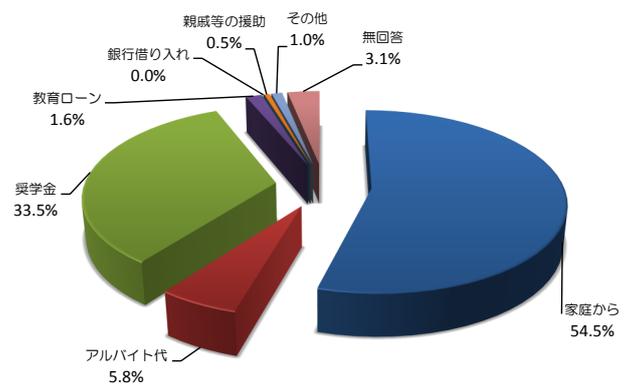
経済・生活状況について

Q.8 学費納入手段として主に考えているものは何ですか？

学費支弁の手段として「奨学金」の割合が年々増加しており、2008年調査結果では24.4%であった割合が、今回調査では33.5%に達している。反対に「家庭から」の割合は、

2008年調査では70.4%であった割合が、今回調査では54.5%と年々減少傾向にあり、厳しい経済状況がうかがえる。

	学費納入手段として主に考えているもの	人数	構成比
1	家庭から	208	54.5%
2	アルバイト代	22	5.8%
3	奨学金	128	33.5%
4	教育ローン	6	1.6%
5	銀行借り入れ	0	0.0%
6	親戚等の援助	2	0.5%
7	その他	4	1.0%
	無回答	12	3.1%
合計		382	100.0%



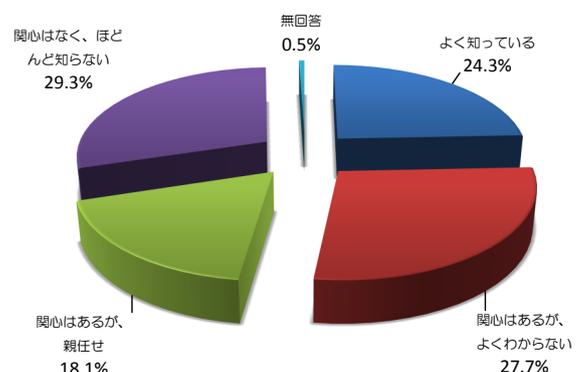
※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.9 本学の奨学金制度についてどの程度知っていますか？

「よく知っている」の割合が年々減少傾向にあり、「関心はあるが、よくわからない」の割合が増加傾向にある。大学

としては、わかりやすい説明と周知方法を心掛ける必要があるだろう。

	本学での奨学金について	人数	構成比
1	よく知っている	93	24.3%
2	関心はあるが、よくわからない	106	27.7%
3	関心はあるが、親任せ	69	18.1%
4	関心はなく、ほとんど知らない	112	29.3%
	無回答	2	0.5%
合計		382	100.0%



※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

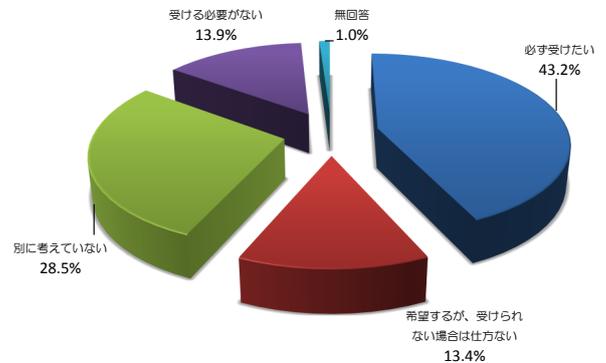
経済・生活状況について

Q.10 奨学金の必要度はどのくらいですか？

奨学金については「必ず受けない」割合が年々増加しているのが特徴である。代表的な奨学金である日本学生支援機構奨学金は、国が予算枠を拡大していることもあり、有利子である「第二種奨学金」の採用率はほぼ100%になっている。

また、学業不振などによって同奨学金の利用ができない学生に対して本学では、民間金融機関と提携し低金利で貸与を受けられる教育ローン「悠々プラン」を紹介するなどして対応している。

奨学金の必要度	人数	構成比
1 必ず受けない	165	43.2%
2 希望するが、受けられない場合は仕方ない	51	13.4%
3 別に考えていない	109	28.5%
4 受ける必要がない	53	13.9%
無回答	4	1.0%
合計	382	100.0%

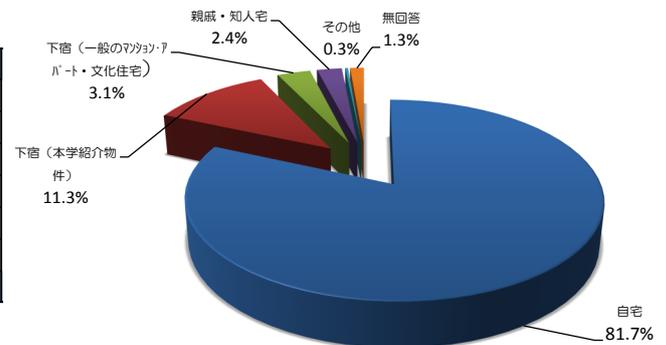


Q.11 現在の住居形態は何ですか？

経済的理由から下宿学生は近年減少傾向にあり、今回は15%を下回った。元々25%程度の下宿生を見込んで用意し

た、本学指定物件の入居率も減少傾向となってきている。

現在の住居は？	人数	構成比
1 自宅	312	81.7%
2 下宿（本学紹介物件）	43	11.3%
3 下宿（一般のマンション・アパート・文化住宅）	12	3.1%
4 親戚・知人宅	9	2.4%
5 その他	1	0.3%
無回答	5	1.3%
合計	382	100.0%

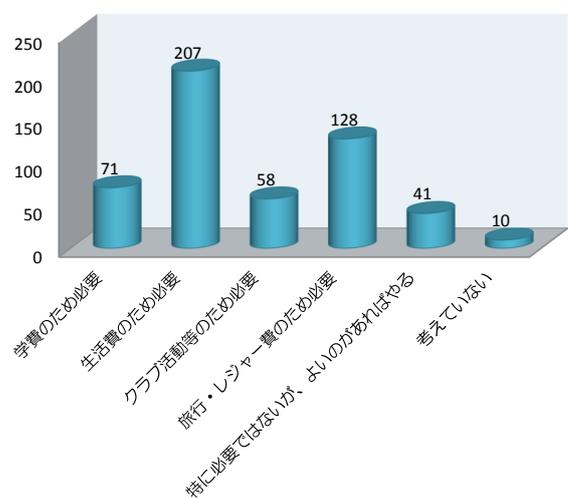


Q.12 アルバイトは必要ですか？ ※複数回答可

アルバイトについては年々回答件数に対する「学費のため必要」「生活費のため必要」の割合が増加しており、学生の

厳しい経済事情が伺える。ただし、過度なアルバイトは学業に支障をきたす恐れがあり、注意が必要である。

アルバイトは必要？	件数
1 学費のため必要	71
2 生活費のため必要	207
3 クラブ活動等のため必要	58
4 旅行・レジャー費のため必要	128
5 特に必要ではないが、よいのがあればやる	41
6 考えていない	10
合計	515



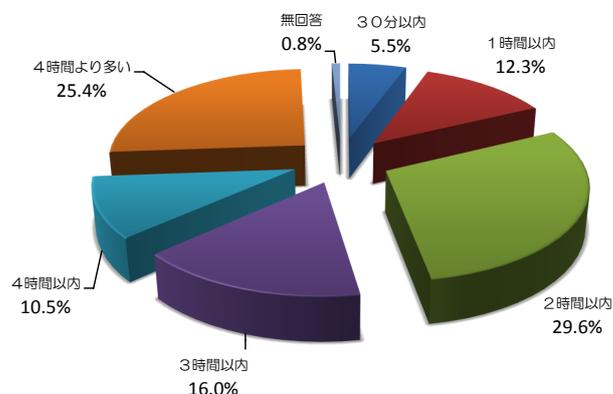
経済・生活状況について

Q.13 一日の携帯電話の利用時間はどのくらいですか？（通話・メール作成時間を含む）

2009年度調査より追加した項である。前回調査と比較すると、携帯電話の利用時間は「30分以内」の割合が△13.3ポイント、「1時間以内」の割合が△6.0ポイント減少する一方で、「2時間以内」が+6.8ポイント、「4時間より多

い」が+11.8ポイントと大きく増加した。これはスマートフォンのアプリ機能など、ここ最近で電話やメール以外の諸機能が充実してきたことが影響していると考えられる。

	1日の携帯電話の利用時間（通話時間やメール作成	人数	構成比
1	30分以内	21	5.5%
2	1時間以内	47	12.3%
3	2時間以内	113	29.6%
4	3時間以内	61	16.0%
5	4時間以内	40	10.5%
6	4時間より多い	97	25.4%
	無回答	3	0.8%
	合計	382	100.0%



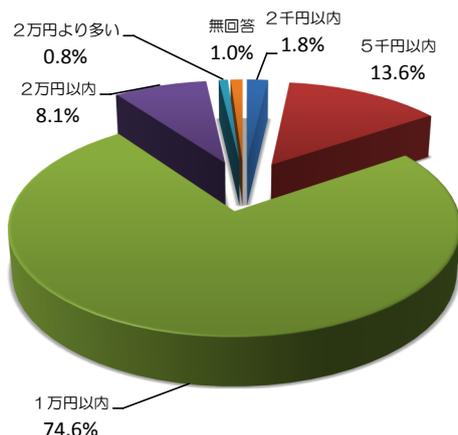
※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.14 一カ月の携帯電話の利用料金はいくらくらいですか？

利用料金については、利用時間が増加しているものの、大きな変化は見られず前回とほぼ同じ結果となった。ほとんど

の利用者が定額制の契約を結んでいることが、主たる要因であろう。

	1ヶ月の携帯電話の利用料金	人数	構成比
1	2千円以内	7	1.8%
2	5千円以内	52	13.6%
3	1万円以内	285	74.6%
4	2万円以内	31	8.1%
5	2万円より多い	3	0.8%
	無回答	4	1.0%
	合計	382	100.0%



※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

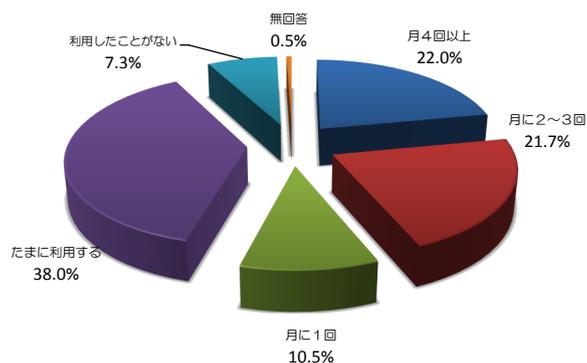
読書について

Q.15 本学の図書館をどのくらいのペースで利用しますか？

本学学生の図書館の利用頻度は減少傾向にある。数年前までは「月4回以上」の割合が最も高かったが、「たまに利用する」の割合が毎年増加しており、前回調査に引き続き今回最も高い割合を占めた。また、「月に1回」の割合が+1.8

ポイント、「利用したことがない」の割合が+3.4ポイントと増加していることなどから、学生の図書館離れが進んでいるとみて間違いはないだろう。

	本学図書館の利用は？	人数	構成比
1	月4回以上	84	22.0%
2	月に2～3回	83	21.7%
3	月に1回	40	10.5%
4	たまに利用する	145	38.0%
5	利用したことがない	28	7.3%
	無回答	2	0.5%
	合計	382	100.0%



※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

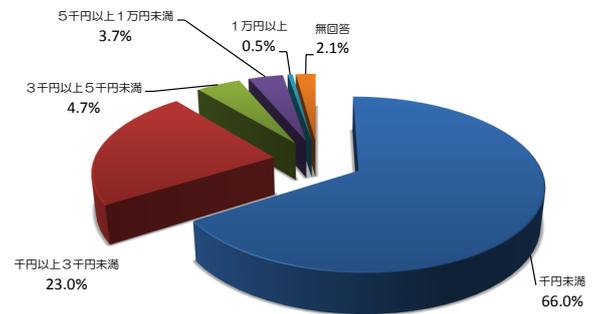
読書について

Q.16 一カ月の読書に要する費用はいくらですか？

昨年度調査に比べ「千円未満」の割合が+9.7ポイントと大幅に増加し、その他の全ての項目で微減もしくは昨年度と同

水準となる結果となった。前項の結果と照らし合わせてみると、学生の読書に対する意識低下が読み取れる。

	読書に要する費用は？（1ヶ月）	人数	構成比
1	千円未満	252	66.0%
2	千円以上3千円未満	88	23.0%
3	3千円以上5千円未満	18	4.7%
4	5千円以上1万円未満	14	3.7%
5	1万円以上	2	0.5%
	無回答	8	2.1%
	合計	382	100.0%



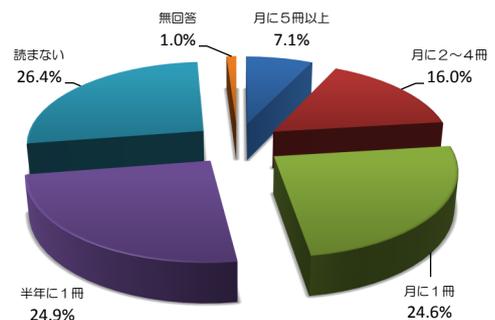
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.17 本を読むペースはどのくらいですか？

本項目も学生の読書離れが如実に反映される結果となった。文化庁の実施した「平成20年度の国語に関する世論調査」（1ヶ月に何冊の本を読むか）の20代の調査結果と比較すると、「読まない」および「半年に1冊読む」の合計割合は全国平均38.0%に対し本学は51.3%、「月に1冊読む」

および「月に2～4冊読む」の合計割合は全国平均51.3%に対し本学は40.6%、「月に5冊以上読む」の割合は全国平均10.2%に対し本学は7.1%と、読書量が少ないことがわかる。昨年度は全国平均とほぼ同水準であったが、今回大きくポイントを落とすこととなった。

	本をどのくらい読みますか。	人数	構成比
1	月に5冊以上	27	7.1%
2	月に2～4冊	61	16.0%
3	月に1冊	94	24.6%
4	半年に1冊	95	24.9%
5	読まない	101	26.4%
	無回答	4	1.0%
	合計	382	100.0%



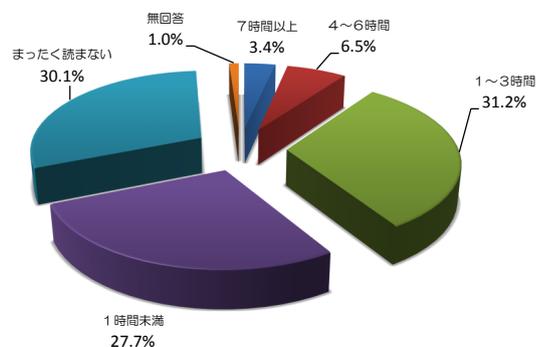
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.18 一日に読書に費やす時間はどのくらいですか？

読書に費やす時間についてもこれまでの調査結果と同様に、読書離れを裏付ける結果となった。「まったく読まない」の割合が+13.3ポイントと大幅に増加し、最も割合の高い「1～3時間」とほぼ同水準となった。それに伴い、他の

すべての項目で割合が減少している。携帯電話の項で大幅な利用時間の増加が見られたが、読書時間の減少もこの影響を受けているのかもしれない。

	読書に費やす時間は？（1日）	人数	構成比
1	7時間以上	13	3.4%
2	4～6時間	25	6.5%
3	1～3時間	119	31.2%
4	1時間未満	106	27.7%
5	まったく読まない	115	30.1%
	無回答	4	1.0%
	合計	382	100.0%



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

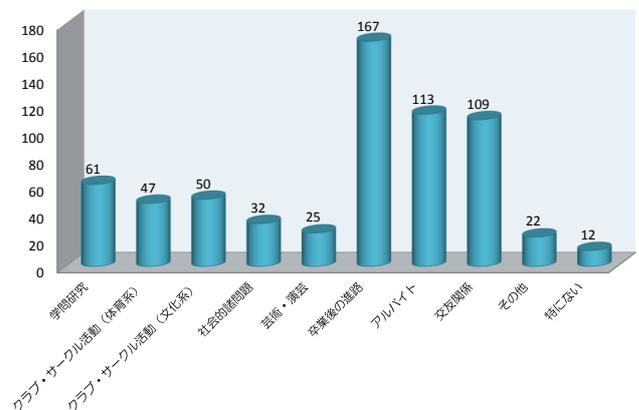
悩み・健康について

Q.19 現在の関心事は何ですか？ ※複数回答可

現在の関心事については、前回調査までと同様に「卒業後の進路」の回答数が最も多く、「アルバイト」「交友関係」がそれに続いた。本設問は複数回答が可であるが、「卒業後

の進路」については、調査回答者全体の実に43.7%もの学生が関心があると回答していることになる。

	現在の関心事は？	人数
1	学問研究	61
2	クラブ・サークル活動（体育系）	47
3	クラブ・サークル活動（文化系）	50
4	社会的諸問題	32
5	芸術・演芸	25
6	卒業後の進路	167
7	アルバイト	113
8	交友関係	109
9	その他	22
10	特になし	12
	合計	638



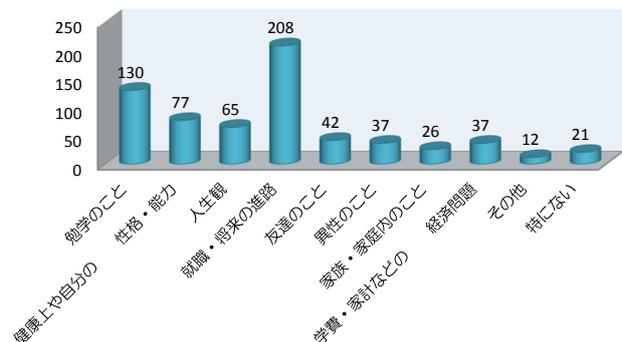
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.20 今悩んでいることはありますか？ ※複数回答可

本設問でも前回までの調査と同様に「就職・将来の進路」の回答数が最も多くなった。進路については高い関心項目であると同時に、多くの学生にとって悩みの種となっているようである。また、「勉学のこと」について悩む学生を減少さ

せるべく、2013年4月より「学習支援センター」が教室棟1号館に設置される予定である。リメディアル教育が実践されることで、低単位取得者の減少などの効果が期待される。

	現在の悩みは？	人数
1	勉学のこと	130
2	健康上や自分の性格・能力	77
3	人生観	65
4	就職・将来の進路	208
5	友達のこと	42
6	異性のこと	37
7	家族・家庭内のこと	26
8	学費・家計などの経済問題	37
9	その他	12
10	特になし	21
	合計	655



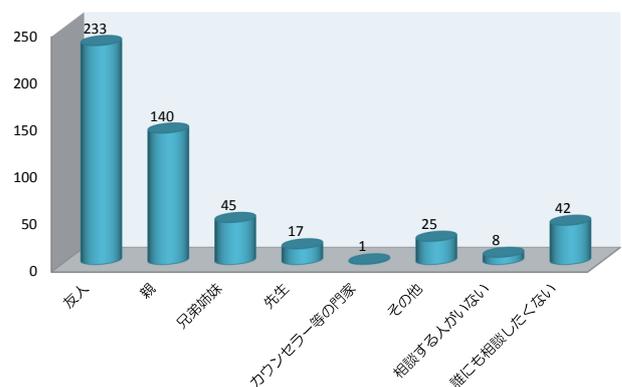
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.21 困ったとき、悩んだ時は誰に相談しますか？ ※複数回答可

本設問でも「友人」が最も多く、次いで「親」「兄弟姉妹」が続くという、例年と同様の結果となった。本学では学生相談室の設置をはじめ、「健康相談24時」などの電話に

よる健康・メンタル相談を24時間行えるようにするなど、学生相談の体制を整えているが、「カウンセラー等の専門家」に相談する人数は多くないようである。

	困ったとき、悩んだ時の相談相手は？	人数
1	友人	233
2	親	140
3	兄弟姉妹	45
4	先生	17
5	カウンセラー等の専門家	1
6	その他	25
7	相談する人がいない	8
8	誰にも相談したくない	42
	合計	511



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

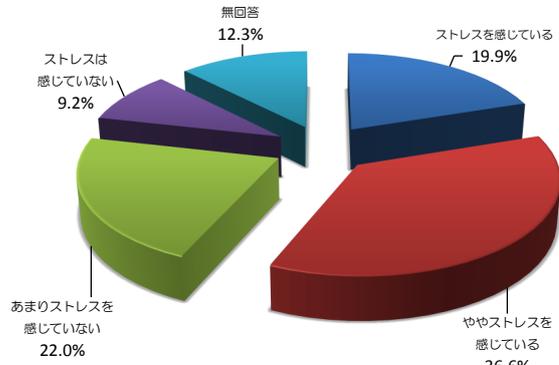
悩み・健康について

Q.22 日頃ストレスを感じますか？

2008年度より追加した項目である。今回調査でも「ストレスを感じている」「ややストレスを感じている」の合計が56.5%と、高い割合となっている。一昔前のように、学生の大学の捉え方が、社会へ入る前のモラトリアムではなく、準備段階という認識にシフトしたことが、学生が常に息苦し

く感じてしまう要因であるように感ずる。積極的なキャリア支援を通して不安とストレスを取り除き、学生の本分である学業や課外活動など、学生時代にしか経験できない種々の活動に注力してもらえるような、環境作りを行っていくべきであろう。

	日頃のストレスについて	人数	構成比
1	ストレスを感じている	76	19.9%
2	ややストレスを感じている	140	36.6%
3	あまりストレスを感じていない	84	22.0%
4	ストレスを感じていない	35	9.2%
	無回答	47	12.3%
	合計	382	100.0%



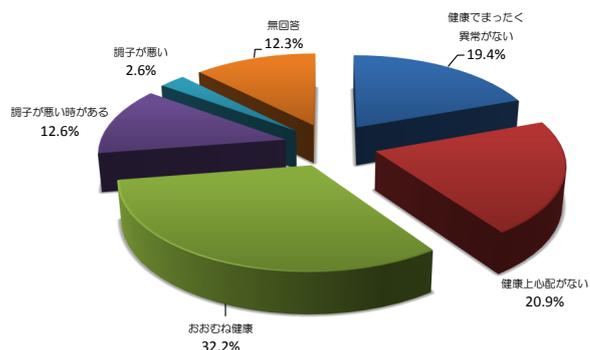
Q.23 自分の健康状態をどのように感じていますか？

※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

前回までと大きな変化は見られない。「おおむね健康」の割合が前回調査から△2.9ポイントで35.1%と最も高く、「健康でまったく異常がない」「健康上心配がない」と合計

すると、8割以上の学生は健康上特に問題はないと捉えているようである。

	日頃の健康について	人数	構成比
1	健康でまったく異常がない	74	19.4%
2	健康上心配がない	80	20.9%
3	おおむね健康	123	32.2%
4	調子が悪い時がある	48	12.6%
5	調子が悪い	10	2.6%
	無回答	47	12.3%
	合計	382	100.0%



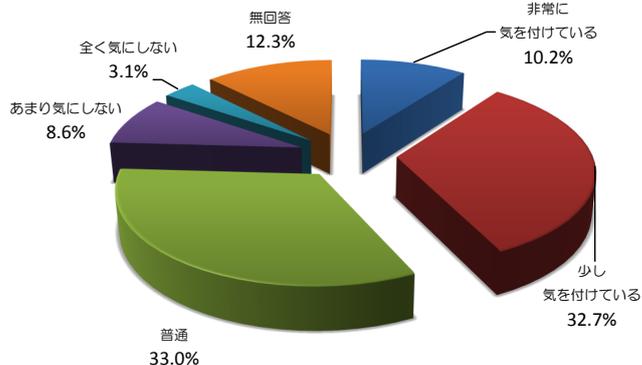
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.24 自分の健康を気遣っていますか？

これも前回までと大きな変化は見られず、「普通」が大半を占めているのは変わらない。前回調査と比べると、「少し気をつけている」の割合が+1.3ポイント、「あまり気にしな

い」の割合が△4.4ポイントと、健康に対する意識はやや上向き傾向であると言える。

	健康についての気遣いは？	人数	構成比
1	非常に気を付けている	39	10.2%
2	少し気を付けている	125	32.7%
3	普通	126	33.0%
4	あまり気にしない	33	8.6%
5	全く気にしない	12	3.1%
	無回答	47	12.3%
	合計	382	100.0%



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

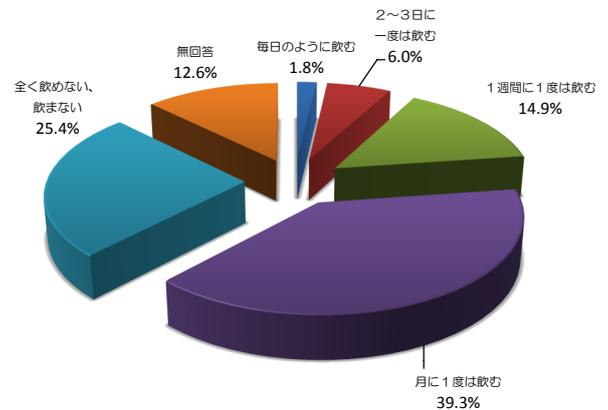
悩み・健康について

Q.25 普段どのくらいお酒を飲みますか？

例年の調査同様、「月に1度は飲む」と「全く飲めない、飲まない」の割合が高く、日常的に飲酒を行う学生は少ないことが分かる。大学生活は多くの学生にとって、初めて飲酒

の機会に触れる時であり、正しい飲酒の知識と、自身にとっての適切な量を把握することが大切である。

飲酒について		人数	構成比
1	毎日のように飲む	7	1.8%
2	2～3日に一度は飲む	23	6.0%
3	1週間に1度は飲む	57	14.9%
4	月に1度は飲む	150	39.3%
5	全く飲めない、飲まない	97	25.4%
	無回答	48	12.6%
合計		382	100.0%



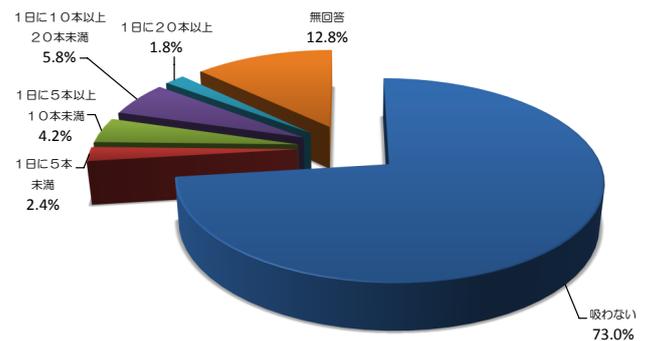
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.26 普段どのくらい煙草を吸いますか？

前回までの調査に引き続き、被喫煙者の割合が73.0%と大半を占めた。喫煙はこれまで健康被害が大きくクローズアップされてきたが、昨今では就職活動においても不利とな

ることがあると指摘されている。大学としては今後も、喫煙がもたらす影響について啓発を続けていくべきであろう。

喫煙について		人数	構成比
1	吸わない	279	73.0%
2	1日に5本未満	9	2.4%
3	1日に5本以上10本未満	16	4.2%
4	1日に10本以上20本未満	22	5.8%
5	1日に20本以上	7	1.8%
	無回答	49	12.8%
合計		382	100.0%



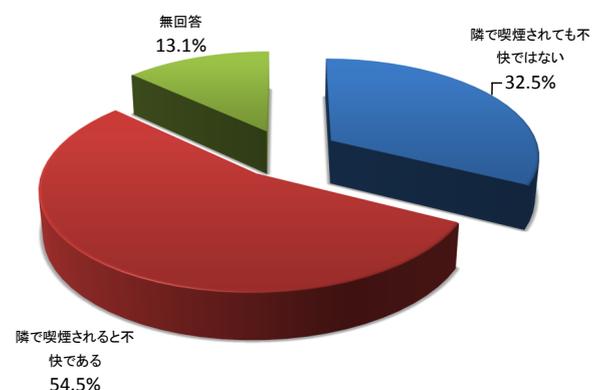
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.27 喫煙所以外での喫煙についてどのように感じますか？

本設問も前回調査とほぼ同じで、「隣で喫煙される不快である」が54.5%と過半数を占めた。本項目は、指定場所以外での喫煙に関する嫌煙調査であり、自由記述欄でも例年注意喚起を行って欲しい旨の意見が多く寄せられる。今後も喫

煙マナーキャンペーンを継続して実施しつつ、全ての構成員が指定場所以外での喫煙に注意を行うような意識改革を行う必要があるだろう。

嫌煙について		人数	構成比
1	隣で喫煙されても不快ではない	124	32.5%
2	隣で喫煙されると不快である	208	54.5%
	無回答	50	13.1%
合計		382	100.0%



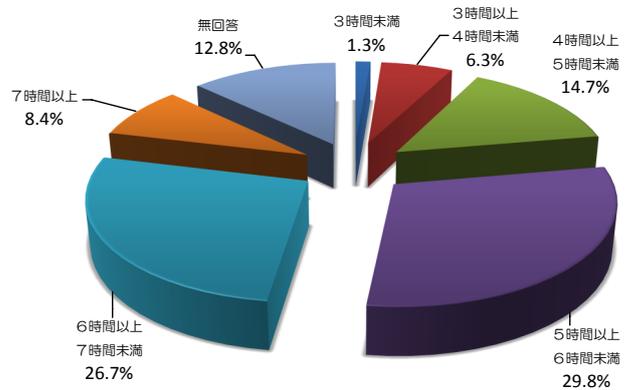
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.28 普段の睡眠時間はどのくらいですか？

昨年度までと同様に「5時間以上6時間未満」の割合が29.8%と最も高かった。厚生労働省の調査によると、成人の睡眠時間は6.5時間～7.5時間がボリュームゾーンであ

り、約1/3の人がここに属しているという。ここから本結果を比較すると、本学の学生には睡眠時間が短い人が多いと言えそうである。

睡眠時間について		人数	構成比
1	3時間未満	5	1.3%
2	3時間以上4時間未満	24	6.3%
3	4時間以上5時間未満	56	14.7%
4	5時間以上6時間未満	114	29.8%
5	6時間以上7時間未満	102	26.7%
6	7時間以上	32	8.4%
	無回答	49	12.8%
合計		382	100.0%



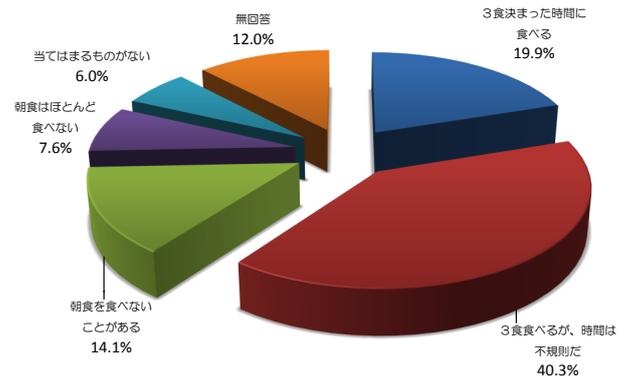
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.29 自分の食生活について一番あてはまるものは何ですか？

これも昨年度までと同様「3食食べるが、時間は不規則だ」の割合が40.3%と最も高かった。大学生は高校生までと違い、時間割の組み方次第で通学時間も大きく変わることが原因の一つであると考えられる。また、本学では学生の指

導の一環として食育にも力を入れており「ひとり暮らしのための料理教室」（自宅生でも参加可能）を定期的で開催している。

食生活について1番当てはまるものは？		人数	構成比
1	3食決まった時間に食べる	76	19.9%
2	3食食べるが、時間は不規則だ	154	40.3%
3	朝食を食べないことがある	54	14.1%
4	朝食はほとんど食べない	29	7.6%
5	当てはまるものがない	23	6.0%
	無回答	46	12.0%
合計		382	100.0%



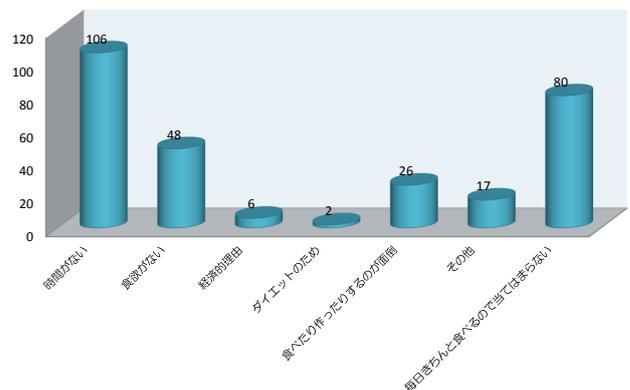
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.30 朝食を食べない理由はなんですか？ ※複数回答可

朝食を食べないことがある場合の理由については、前回までと同様「時間がない」を選択する学生が最も多かった。しかしこれは起床時間を早めることで解決できる問題であり、

朝食の有用性についてもさることながら、社会人になってから必要とされる自己管理についても意識づけしていく必要もあるだろう。

朝食を食べないことがある場合、その理由は？		人数
1	時間がない	106
2	食欲がない	48
3	経済的理由	6
4	ダイエットのため	2
5	食べたり作ったりするのが面倒	26
6	その他	17
7	毎日きちんと食べるので当てはまらない	80
合計		285



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

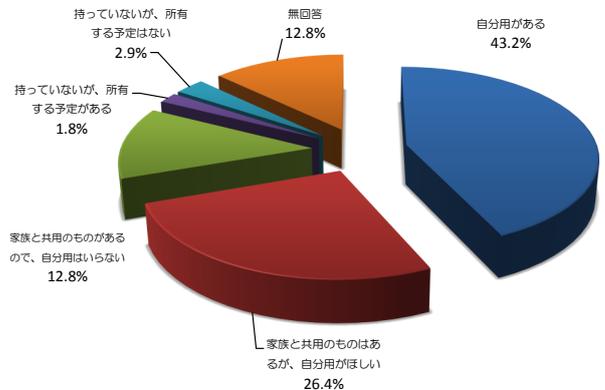
情報関連について

Q.31 パソコンを持っていますか？

今回も「自分用がある」の割合が43.2%と高い割合となったが、前回調査と比べると△9.8ポイントと減少している。3割の学生が自分用のパソコンが欲しいにも関わらず、

所有できていない状況にあり、まだまだ学生に行き渡っていないとはいづらい状況である。

	パソコン保有状況	人数	構成比
1	自分用がある	165	43.2%
2	家族と共用のものはあるが、自分用がほしい	101	26.4%
3	家族と共用のものがあるので、自分用はிரらない	49	12.8%
4	持っていないが、所有する予定がある	7	1.8%
5	持っていないが、所有する予定はない	11	2.9%
	無回答	49	12.8%
	合計	382	100.0%



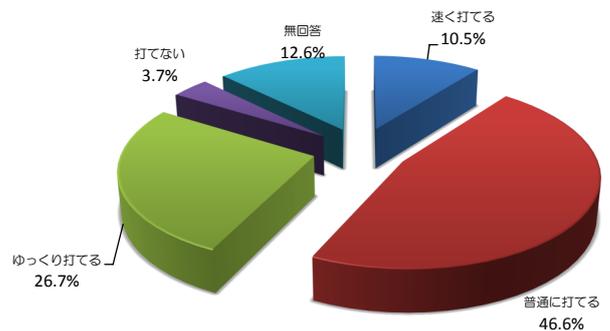
※縦一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.32 タイピング能力はどの程度ですか？

前回までと同様「普通に打てる」の割合が46.6%と最も高い割合となった。レポートや授業内プレゼンテーション資料の作成など、学習面での利用頻度の増加だけでなく、SNSやインターネットなどの趣味においてもタイピングの機会が

大幅に増加していることが要因であろう。「打てない」の割合は3.7%に留まり、ほぼ全ての学生が修得できていると見ていだろう。

	ワープロ習得状況	人数	構成比
1	速く打てる	40	10.5%
2	普通に打てる	178	46.6%
3	ゆっくり打てる	102	26.7%
4	打てない	14	3.7%
	無回答	48	12.6%
	合計	382	100.0%



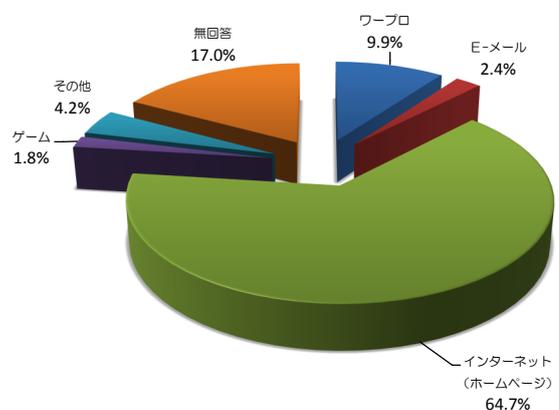
※縦一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.33 パソコンをどんな目的で使いますか？

パソコンの利用目的については、前回までの調査と同様に「インターネット（ホームページ）」の割合が64.7%と

最も高い割合を占めた。続いてワープロが9.9%と続くのも同様である。

	パソコンの主たる利用目的	人数	構成比
1	ワープロ	38	9.9%
2	E-メール	9	2.4%
3	インターネット（ホームページ）	247	64.7%
4	ゲーム	7	1.8%
5	その他	16	4.2%
	無回答	65	17.0%
	合計	382	100.0%



※縦一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

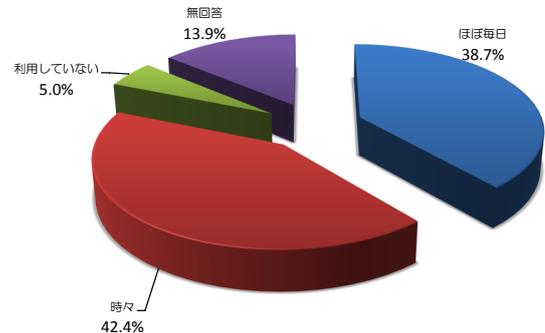
情報関連について

Q.34 インターネットの利用頻度はどのくらいですか？

数年前から無効回答を除くと「ほぼ毎日」「時々」の合計が100%に近い割合となっている。2011年度秋学期には、学内無線LANアクセスポイントが刷新され、各地でWi-Fi接続が利用できることになり、学内でのインターネット環境は

格段に向上した。今後この環境を活かしたサービスが行えるよう取り組みを強化すべきであろう。

	インターネットの利用は？	人数	構成比
1	ほぼ毎日	148	38.7%
2	時々	162	42.4%
3	利用していない	19	5.0%
	無回答	53	13.9%
	合計	382	100.0%



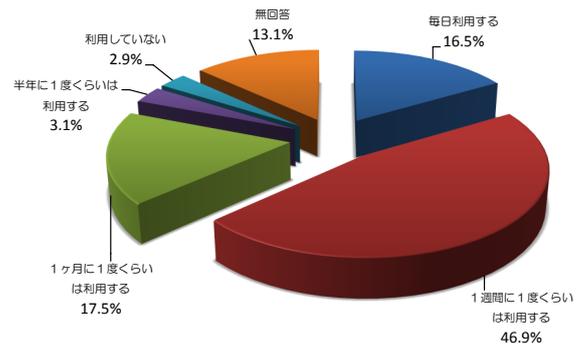
※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.35 本学のホームページを利用しますか？

本設問では、2011年度よりWeb履修登録やポータルサイトの運営（M-Port）が始まったことで、利用頻度の大幅な向上が見られた。今回調査でも、「毎日利用する」の割合が+1.9ポイントで16.5%、「一週間に一度くらいは利用す

る」の割合が△7.6ポイントで46.9%という高い水準を維持するなど、閲覧率向上が見られた。今後は一方的な告知に留まらず、M-PortやFacebookなどを通じた、双方向の情報伝達の場となることが期待される。

	本学のホームページは？	人数	構成比
1	毎日利用する	63	16.5%
2	1週間に1度くらいは利用する	179	46.9%
3	1ヶ月に1度くらいは利用する	67	17.5%
4	半年に1度くらいは利用する	12	3.1%
5	利用していない	11	2.9%
	無回答	50	13.1%
	合計	382	100.0%



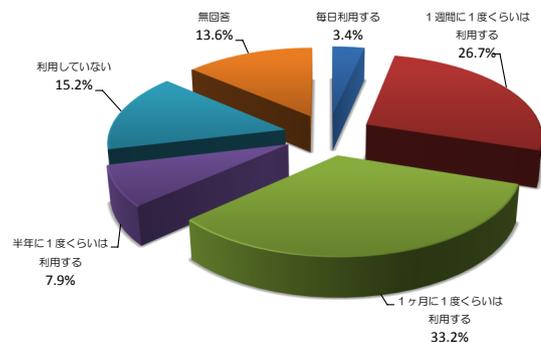
※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.36 情報センターの自習室（PCロビー室含）をどのくらい利用しますか？

前回調査とほとんど変化がみられない結果となった。「1ヶ月に1度くらいは利用する」の割合が33.2%と最も高く、次いで「1週間に1度くらいは利用する」が26.7%と

なっている。パソコン所有率向上が鈍化傾向にあるため、自習室利用状況についてもさほど大きな変化はみられないよう

	情報センター自習室（PCロビー含）の利用	人数	構成比
1	毎日利用する	13	3.4%
2	1週間に1度くらいは利用する	102	26.7%
3	1ヶ月に1度くらいは利用する	127	33.2%
4	半年に1度くらいは利用する	30	7.9%
5	利用していない	58	15.2%
	無回答	52	13.6%
	合計	382	100.0%



※択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

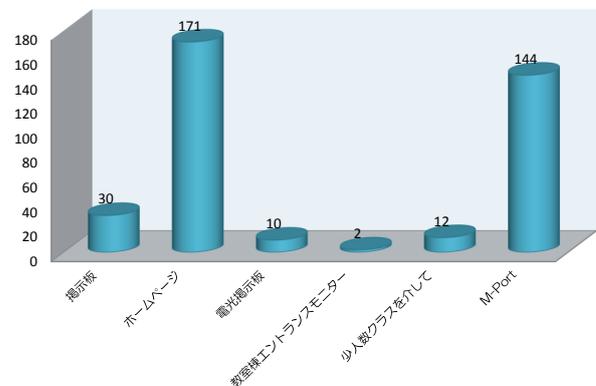
情報関連について

Q.37 本学からの情報はどこで取得していますか？ ※複数回答可

情報の取得先としてホームページが最も多いのは例年通りだが、M-Portがそれに比肩するほど増加しているのが大きな変化である。M-Portの導入から1年以上が経過し、学生にも情報の取得先としてある程度認知されてきたようである。ただし、各種アンケートでもM-Portの改善要望は多く、万

能な情報伝達ツールとは言えない。導入時からスマートフォン等でなければ扱いづらいことが指摘されていたため、それらを所有していない学生のために、教務課や学生支援課窓口にてM-Port専用端末の設置を行うなど、措置を講じている。

本学からの情報はどこで取得していますか？		
1	掲示板	30
2	ホームページ	171
3	電光掲示板	10
4	教室棟エントランスモニター	2
5	少人数クラスを介して	12
6	M-Port	144
合計		369



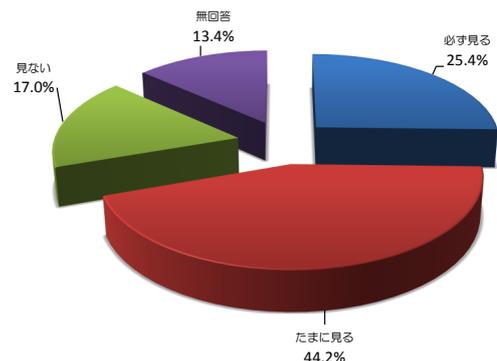
※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

Q.38 本学から送信されたメールを見えていますか？

M-Port導入によって一斉メールが段階的に廃止されることとなり、学生全体に送るメール量は減少している。これら

の影響からか「必ず見る」の割合は減少傾向にある。

本学から送信されたメールは見えていますか？			
	人数	構成比	
1	必ず見る	97	25.4%
2	たまに見る	169	44.2%
3	見ない	65	17.0%
	無回答	51	13.4%
合計		382	100.0%



※折一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

自由記述について

Q.39 大学に対する要望はありますか？

例年、自由記述欄では「喫煙」と「通学バス」に関する意見が大半であったが、前回よりM-Portに関する意見も多く寄せられている。大学側としては、学生の利便性を考え、情報公開箇所を1箇所（M-Portのみ）に集約したい考えだが、学生ニーズとの間にはミスマッチがあるようである。全ての学生がM-Portを快適に利用できる環境ではない以上、それらの学生への配慮も必要になるだろう。

通学バスについては、授業期間中の通学バス定期券の導入と「金剛ライン」の開通、2013年度には「富田林ライン」と「和歌山ライン」が新たに開通するなど利便性は向上している。そのため昨今では通学バスに関する意見はあまり見られなくなっている。

喫煙問題については当委員会としても問題視しており、今年度は喫煙マナーキャンペーンを、従前各学期中に2回のところを3回に増やして実施した。また、他大学に比べて喫煙所が多いことが問題となっていたため、喫煙所の削減を行い分煙の強化を図った。喫煙所の削減については、非喫煙者の受動喫煙を防止するため引き続き行っていく方針である。

なお、前回調査までは学生の経済的な動向を把握するために「主たる家計支持者の収入」に関する設問が存在したが、匿名でも答えるのに躊躇する意見が多かったこと、アンケート実施を授業内実施に切り替えたことで正確な金額を回答することが困難となることを考慮し、今回から削除した。

